

まちの財政事情と いまこそ 向きあう時期。

今、市政の基盤である、財政をとりまく環境は七尾市のみならず、全国の自治体も同じように厳しい見通しであり、もはや従来のような予算編成や自治体運営では立ち行かなくなることは目に見えています。

そんな中、私が石川県から七尾市へ派遣されたわけですが、それは七尾市の財政を健全化することが目的です。

財政の健全化という言葉を目にして、深刻で難しい話だと考える方もおられますが、簡単に言えば、市に入ってくるお金と使われるお金のバランスをいかに安定させるかということです。

これまで、行政のスリム化を目的として市役所職員の数減らしたり、さまざまなムダを無くしたりするなど、使われるお金の徹底した効率化を図ってきました。

さらに、将来どのような社会環境になろうとも、決してゆるぐことのないしっかりとした財政基盤を確立させるためには、市民のみなさんが自らできることは、自らにさせていただくといった、協働による自治体運営を発展させることが必要だと考えています。

市民のみなさんには、自分たちが暮らしているまちがおかれている状況を他人事として片づけてしまうことなく、将来を見据えて、どうあるべきなのかということを実際に考えていただきたいと思います。

プロフィール

平成18年8月七尾市参事に着任
かほく市在住
石川県地方課課長補佐、交流政策課
参事兼課長補佐などを歴任



七尾市参事

紮野健治

kenji kaseno

平成17年度決算で見る
【入ってきたお金のランキング】
総額351億6,273万5千円
(市民1人あたり 56万6千円)

- 1位 地方交付税
「国から支援されたお金」
103億8,347万4千円
(市民1人あたり 16万7千円)
- 2位 市税
「納めていただいた税金」
88億3,800万3千円
(市民1人あたり 14万2千円)
- 3位 市債
「新たな借金」
44億9,840万円
(市民1人あたり 7万2千円)
- 4位 国庫支出金
「国から支払われるお金」
36億1,982万円
(市民1人あたり 5万8千円)
- 5位 県支出金
「県から支払われるお金」
19億3,313万3千円
(市民1人あたり 3万1千円)
- 6位 諸収入
「延滞金や雑入」
13億6,580万1千円
(市民1人あたり 2万2千円)
- 7位 繰入金
「市の貯えを取り崩したお金」
11億6,402万7千円
(市民1人あたり 1万9千円)
- 8位 使用料および手数料
「施設の利用者や各種証明を得た方から受け取ったお金」
8億5,185万9千円
(市民1人あたり 1万4千円)
- 9位 地方消費税交付金
「県から支払われるお金」
6億5,659万1千円
(市民1人あたり 1万1千円)
- 10位 地方譲与税
「国から渡されるお金」
6億2,787万5千円
(市民1人あたり 1万円)
- ランク外 分担金、負担金など
12億2,375万2千円
(市民1人あたり 2万円)

平成17年度決算で見る
【使ったお金のランキング】
総額347億48万6千円
(市民1人あたり 55万8千円)

- 1位 普通建設事業費
「道路や施設などの新増設に使ったお金」
74億2,493万8千円
(市民1人あたり 11万9千円)
- 2位 人件費
「職員や議会議員などに支払われたお金」
59億5,245万5千円
(市民1人あたり 9万6千円)
- 3位 公債費
「借金を返済した額」
54億77万円
(市民1人あたり 8万7千円)
- 4位 補助費等
「イベントや団体活動の支援に使われたお金」
52億8,121万6千円
(市民1人あたり 8万5千円)
- 5位 扶助費
「市民の生活支援に使ったお金」
34億1,944万7千円
(市民1人あたり 5万5千円)
- 6位 繰出金
「特別会計の資金運用に使われたお金」
33億7,268万7千円
(市民1人あたり 5万4千円)
- 7位 物件費
「電気料や消耗品などの購入に使われたお金」
30億2,504万円
(市民1人あたり 4万9千円)
- 8位 維持補修費
「道路や施設などの維持管理に使われたお金」
3億124万1千円
(市民1人あたり 5千円)
- 9位 災害復旧事業費
「災害でこわれた道路などを直すために使われたお金」
2億6,026万6千円
(市民1人あたり 4千円)
- 10位 積立金
「将来に備えて積み立てたお金」
2億5,290万4千円
(市民1人あたり 4千円)
- ランク外 出資金や貸付金など
952万2千円

七尾市は、
何が「いくら」入って、
何に「いくら」使っているの？

※市民1人あたりの額は平成18年3月31日現在の住民登録総人口62,183人で計算しています。

財政を見て、聞いて欲しい

まちの財政は、普段の生活で耳慣れない言葉が多く、難しく考えてしまいがちです。しかし、仕組みは至ってシンプルです。どのような関係の「お金がいくら入ってきて」「どのような目的で」「お金をいくら使った」のかということです。

それを見ることができなのが「決算」であり、市の広報誌やホームページなどを通して広く情報発信されています。

決算から見えるもの、それは自分たちが生活する「まちの家計事情」です。

「何が多く入ってきて、何に多く使われているのか？」

「いくら借金をして、いくら返済をしたのか？」

「総額はいくらなのか、バランスは取れているのか？」

さらに、過去と比べれば、まちの成長が見え、ほかのまちの財政情報と比べてみれば、まちの個性が見えてきます。

まちの財政は、市民生活に密着している身近な存在です。

決して他人事として扱わないで、自分自身の目や耳で確かめることが大切です。

そこで疑問に感じたこと、わからないことがあれば、どんどん市役所に聞いてください。

そして情報を共有し、ともにまちの将来像を描きながら「何を削り」「何を残し」「何を創る」のかを選択していきましょう。